



三用小学校 学校だより

令和6年度 第11号 1月（保護者地域配布用）〈3学期スタート号〉
南魚沼市立三用小学校 令和7年1月8日



ホームページも
ご覧ください

文責：校長 大関 聡

子どもたちとともに歩みを進めていきます 本年度もよろしくお願いいたします

15日間の冬休みが終わりました。本日から3学期がスタートしました。この冬休みに子どもたちは様々な経験をしたことと思います。それらの経験を糧とし、この3学期の成長につなげてほしいと思っています。我々職員は、子どもたちがその成長の歩みを進められるよう見守り、助言、励ましの声をかけていきたいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様、引き続き三用小学校の教育活動にご理解、ご協力をお願いいたします。



今年度もCSの和田良一さんより書いていただきました。ありがとうございました。

～本日の始業式で私から、以下の話をしました。～

今年はへび年です。日本各地の神社仏閣では蛇を崇める風習が残っています。蛇は生命力が強く、大きく成長することから、成長や繁栄、財運の象徴とされています。なので、蛇の脱皮した皮を財布に入れておくと金運が上昇するという言い伝えもあります。

『脱皮』のことを知っていますか？脱皮は、昆虫や爬虫類が成長のため古くなった外皮を脱ぎ捨てることを言います。その脱皮を繰り返すことで蛇は体が大きく、たくましくなっていきます。蛇は、2～3ヶ月に1回ほど脱皮をしているそうです。蛇は誰の力も借りず、自分だけの力で脱皮を繰り返しています。この脱皮という作業は蛇にとっては大変な苦難なことだそうです。そしてその脱皮がうまくできない蛇は成長することができずに死んでしまうのだそうです。

さて、蛇の脱皮を学校生活に当てはめてみましょう。学年の変わり目、節目は、まさに人間にとって『脱皮の時期』です。もう一度、どんな自分になりたいか想像して、めあてを立てましょう。そして、4月には立派に『脱皮』し、成長した姿になれるようにしましょう。この3学期は、6年生にとっては小学校生活の締めくくりはもちろんのこと、1～5年生も学習面、生活面など、学年の締めくくりです。一人一人が自分で考え、しっかりと過ごし、力を身に付け、レベルアップを目指しましょう。一段レベルアップすることを「一皮むける」といいます。4月には一皮むけて成長した皆さんであることを期待しています。

八海山麓スキー場開き

12月25日(水)に、八海山麓スキー場開きが行われました。ちょうどこの日から、スキー場が営業開始ということもあり、大勢の方々が来場されました。書道パフォーマンスや八海太鼓の演奏などがある中、三用のトランペット鼓隊も参加しました。たくさんの人たちの前での演奏に、子どもたちは少々緊張しましたが、練習の成果を発揮することができました。多くの皆様から拍手をいただきました。参加していた大和中学校吹奏楽部の生徒のみなさんからも、三用の子どもたちの演奏の上手さとがんばりに、特に大きな拍手をいただきました。子どもたち自身が、自分のがんばりを実感できるいい機会となりました。



2学期末学校評価について

2学期の学校評価アンケートにご協力をいただき、大変ありがとうございました。アンケートの集計結果を裏面に掲載しております。アンケートでいただいたご意見は「これからもよろしくお願いいたします。」や「いつもありがとうございます。」など、我々職員の力が出る励ましの言葉を多くいただきました。ありがとうございます。この後も、お気付きの点がありましたら遠慮なく学校にご連絡ください。よろしくお願いいたします。(三用小学校：779-3006 教頭)

令和6年度2学期 学校グランドデザインの評価			
◎成果は児童の成長や向上についてです。児童・保護者・教職員が評価します。教育活動・運営活動は教職員の取組についての自己評価です。			
2学期末に実施しました「学校評価」の結果をお知らせします。			
進んで学ぶ子			評価
学力の向上	成果	国語、算数のワークテスト(単元テスト)が80点以上の児童を80%以上にする。	B
		かかわり合い学ぶことができたとする児童を80%以上にする。	B
		「学年×10分」の家庭学習に取り組む児童を90%以上にする。	C
		外国の人や障がいのある人など、いろいろな人と関わり学ぶことができたとする児童を全校で80%以上にする。	A
	教育活動	児童が主体的に学ぼうとする授業づくりに努める。	B
		学習の基礎となる言語能力(特に読解力)を高めるための言語環境の整備と言語活動の充実に努める。	B
		話し手、聞き手を意識し児童相互をかかわらせながら考えを伝え合う工夫に努める。	B
		家庭学習の習慣化を図る支援を行う。	A
	運営活動	ワークテストや各種学力検査の結果をもとに指導方法を検討する機会をもつ。	B
		自主学習に主体的に取り組める手立てを講じて、児童の家庭学習への取組の意欲の向上を図る。	B
認め合う子			評価
自信(自己肯定感)の育成	成果	互いの違いを認め合い、自分や友達のよさに気付いて伝えることができたと答える児童を全校で80%以上にする。	A
		相手の気持ちを考え、協力して活動することができたとする児童を80%以上にする。	A
		進んであいさつや返事ができたとする児童を全校で80%以上にする。	A
	教育活動	児童の活躍の場(学級活動、学校行事、縦割り班活動等)の設定及び、互いの違いを認め合い自他のよさに気付いて伝える活動を充実させる。	A
		グループで協力する活動や学校外の方々(地域民、保育園児、高齢者、障がいのある人など)との交流活動の推進する。	A
		話し合いや振り返りによるあいさつや返事を向上する取組を行う。	B
	運営活動	アンケートや調査の結果、教育相談を生かした学級経営の改善を行う。	B
		「学校いじめ防止基本方針」に基づき、定期的な調査、教育相談、子どもを語る会等を設定する。	A
		自己肯定感を高める活動や振り返りを工夫する。(全校SSE、リハーサル等)	A
		きたえる子	
健康な体・体力の向上	成果	体力テストで課題となる項目について重点的に運動に取り組む。	B
		できるようになった運動が増えたり、運動における記録が伸びたりしたと感じる児童の割合を80%以上にする。	A
		自分で決めた就寝時刻を守ることができた児童の割合を80%以上にする。	A
	教育活動	体力テストの結果を基にしためあての設定、課題に応じた運動の工夫をする。	B
		学習カードの活用によるめあての設定と振り返りを行う。	B
		児童の実態に応じ家庭との連携を行う。	B
	運営活動	体力テストの結果を分析し、各個人、学年の課題にあった運動に取り組む。	B
		実態に合わせた運動カードを準備し、活用する。	A
		生活リズム強調週間の取組を進め、児童の実態に応じた指導をする。	B
		進んで学ぶ子	
認め合う子			○ 「進んであいさつや返事をする」が児童が前期に引き続き100%、保護者においても97.8%(肯定的評価)と4.9%向上しています。「友達のよさやがんばりを認めることができる」が児童95.3%(－3.1)、保護者の97.8%(－0.4)と前期に比べ、微減ではあるものの高評価となっています。人間関係の初歩であるあいさつを大事にするとともに、認め合える気持ち・態度を引き続き大事にしていきたいです。 ○ 「さんなどをつけて友達を呼んでいる」の肯定的評価が、82.8%と前期に比べ9.4%減りました。以前、高い数値ではあるのですが、慣れてくると気軽な気持ちで自分たちなりの呼び名で呼び合うこともあります。不快な思いをしないように見守っていく必要があります。

●評価のBは、「全校の70～80%達成」「6学年中、5学年が達成」「各学年の取組を3点満点で評価し、その平均の数値が1.5以上2.6未満」として判断しています。
●Aは「B以上」、Cは「B以下」です。

進んで学ぶ子

○ R6前期は、「国語・算数のワークテスト」の項目はC評価でした。日々の取組の成果により、今回はB評価となりました。引き続き、子どもたちの力の定着に向けた取組を進めていきます。

○ また、家庭学習の習慣化に向けてまだ工夫の余地があるものの、それぞれの学年の取組に応じたなげかけを続け、一定の効果も見られ始めています。継続した取組を行っていきます。

○ 今年度の研究テーマである「聞き合い・関わり合い・学びを楽しむ子供の育成」のもと、授業改善に努めてきました。日頃の授業の変化が見られるようになってきました。しかし、かわかり合い学ぶことができた実感できなかった児童がわずかながら見られました。より効果のある方策を模索していきます。

認め合う子

○ 「進んであいさつや返事をする」が児童が前期に引き続き100%、保護者においても97.8%(肯定的評価)と4.9%向上しています。「友達のよさやがんばりを認めることができる」が児童95.3%(－3.1)、保護者の97.8%(－0.4)と前期に比べ、微減ではあるものの高評価となっています。人間関係の初歩であるあいさつを大事にするとともに、認め合える気持ち・態度を引き続き大事にしていきたいと思います。

○ 「さんなどをつけて友達を呼んでいる」の肯定的評価が、82.8%と前期に比べ9.4%減りました。以前、高い数値ではあるのですが、大きな課題ではありませんが、慣れてくると気軽な気持ちで自分たちなりの呼び名で呼び合うこともあります。不快な思いをしないように見守っていく必要があります。

きたえる子

○ 休み時間になれば、体育館やグラウンドで元気よく駆け回る児童が多く見られます。体を動かすことは厭わない児童が多いです。この項目の結果も前期と比べ、大きな変化はなく、変わらず、「体育や運動が好き」が92.2%と好結果でした。体力は生活の基本です。引き続き、児童が楽しんで体を動かすことができるように工夫していきます。また、「めあてをもって協力してがんばる」も95.3%と好結果でした。体育等は体力向上だけが目的ではありません。仲間と協力するなどの心も育まれます。その点も、意識して今後も取組を続けていきます。

○ 三用だけではなく、どの地域でもここ数年課題となっている「ゲームやテレビ、タブレット等(通信機器(ネット)を使う場合)家の人との約束を決め、守っている」。いわゆるメディアとの接し方です。後期は児童の肯定的評価が87.5%で前期より3.1%向上しました。5・6年生対象のメディア講座を実施するなどの取組が一定の成果につながりました。ただし、保護者評価では62.2%と前期より3.9%ダウンしています。学校では、今後、1～4年生対象のメディア講座を予定しています。とはいえ、メディアの課題は、家庭との連携は必須です。ぜひ、家庭でも随時話題に取り上げ、ルール化していただきたいと思います。